

# 子育て支援財団「プレミアム・パスポート」

「プレミアム・パスポート」の視察のために金沢へ行ってきました。全国で唯一、石川県の子育て支援財団が実施をしているというので、さっそく連絡をいれて出かけることにしました。「プレミアム・パスポート」とは？

基本的には、18歳未満の子供が3人以上いる人が会員になると、協力店で買い物をする、その店によってサービスの程度はちがうけど、大きい値引きで50%~5%まで、それ以外にも毎月19日は育児の日として食料品全品15%オフとか、さまざまなサービスを受けることができます。現在、1700店舗が協賛店として参加しています。初年度は1091店舗ですから、徐々に増えている状況です。石川県全体で、18歳未満の子供が3人以上いる家庭は17000世帯です。この、プレバス制度によって年間にどのくらいの金額が支援となっているかは算出されてはませんが、各家庭にとって、大きな支援になっていることはまちがいないと思います。全体の「しくみ」やサービスの内容など、だいたい勉強できました。しかし、どうしてもかなわないと思ったのは、その責任者としてお会いした、谷内(やち)さんという財団の専務さんです。県庁に居たという谷内さんですが、「子育て」に対する思い入れはすごいのです。このプレバス制度の立ち上げでのご苦労もなみなたいではなかったでしょうが、これまでの実績もさることながら、現在の前向きな姿勢にも頭が下がります。今度は「チャイルドプレミアム」制度もはじめたそうです。

# 障害者団体連合会 運動大会に参加

第43回障害者団体連合会体育大会が開催されました。身障センターへゆくと、あきらかに昨日グラウンドを懸命に整備したことがわかる状態でした。職員やボランティアの人たちでグラウンドの水を雑巾で一生懸命取り除いたそうです。そんな、みなさんの思いが通じてか、この何年かのなかで、一番の秋晴れでした。私も毎年、おじゃまして、みなさんと競技に出場するのが楽しみです。この体育大会で「似顔絵競争」という種目がありまして、その場で皆さんがリレーで似顔絵を書いてくれるのですが、その、モデルになるのが一番の楽しみなのです。そして、書いてもらった似顔絵を1年間事務所に貼っておくのが私にとっての恒例となっています。今年も、出場というか、モデルとして出場させていただき、似顔絵を描いてもらいました。わたしの近くまで来て、懸命にマジックを走らせ、私の顔を描いてくれる皆さんの真剣な様子がうかがわれ、ことしは一番のできと確信しておりました。みなさんのおかげで、今年も事務所におく似顔絵をいただきました。ありがとう御座いました。



平成 19 年 10 月 28 日 (日)

# 「日経おとなのバンド大賞」

「日経新聞おとなのバンド大賞」いつになっても、音楽に夢中な大人たちへ。もっと上手になりたい。もっと仲間とつながりたい。そんな思いを応援する、おとなのためのバンドコンテストに応募するべく、平成 19 年 9 月 2 日に久しぶりに、バンドの仲間が集まり、曲の録音をしました。私たちの代表曲「LOVE LOVE LOVE」で挑戦しました。



# 秋祭り

平成 19 年 10 月の秋祭りは、市政70周年の年、その記念イベントが開催されました。川東地区と川西地区の24台の太鼓台が国領川河川敷に集結して「かきくらべ」しかも、棧敷席を2000席用意してのイベントはこれまでの祭りの歴史では初めてです。今回のイベントを弾みに、名実ともに日本一の祭りになるような試みを進めなければならないと思っています。私の地元「久保田太鼓台」が「さしあげくらべ」でみごとに優勝したのが、なによりもの喜びでした!!



# 韓国大統領就任式

韓国政府から、正式に平成 20 年 2 月 25 日に開催される、大統領就任式の招待がありました。このような招待は、ワールドカップの開催感謝パーティーに呼ばれていらいます。日韓共同開催のワールドカップに貢献したということで、招かれたのですが、その時は 1500 人ぐらいのパーティですが、日本人は私一人でした。

就任式当日、朝、ちょうど森元総理、麻生元幹事長、中川元幹事長が前を歩いてこられたので、思わず出て行って、森元総理に先日の講演のお礼をさせて頂き、麻生先生とも一言二言話をさせていただきました。また、5 年前の日韓共催ワールドカップのときにお会いして以来でありました。チョンモンジュさん、たしか FIFA の副会長もしておられたと思うのですが、現代グループの総帥でもあったと思います。「是非、愛媛に来て下さい」と言って置きました。



その後、李大統領とツーショットで写真を撮ってもらう機会を得ました。警護の人も多かったし、カメラを持って写真撮っている人はほとんどいなくて、それでも勇気をだしてお願ひさせて頂きました!! 麻生さんにも、平成 16 年の災害の時に、踏み切りの拡幅でお世話になったことを、あらためてお礼を言いました。今回の大統領就任式への出席が、かなったのも、韓国の友人のおかげであり、また、日本の友人のおかげでもあります。多くのチンゲー(親友)のアドバイスや助けて、日韓の少年サッカーの交流もできました。また、愛媛での IT 企業のビジネスフェアへの出展もしてくれました。当然、その前に韓国の IT 企業を訪問もしました。アイテム愛媛での朴さんの講演も企画しましたし、実現もでき、テレビ会社の MBA に協力してゴルフ番組を 6 週間分、愛媛県の紹介をかねて作りました。その他にもいろいろありますが、なによりも、日韓共催のワールドカップの前夜祭に、新居浜の太鼓台が参加できたことは、私にとっても多くの日韓交流の中でもひととき心に残ったイベントでした。

今思えば、イベントごとに文化のちがいがいなどによる、さまざまな障害も多くありました。しかしながら、韓国の友人と友情は常に変わらず持ち続ける事ができたことが、これまでの足跡となったと思います。これまで、10 年近く付き合ってくれた友人に感謝をこめて、「ありがとう御座いました。」

# 大島白いも収穫祭

平成 19 年 10 月 4 日に、全国農業会議所主催の、特定法人等農地利用調整緊急支援事業地方研修会(四国ブロック)が小豆島でありました。



グッドウィルのこれまでの大島での活動や構造改革特区の認定をもらうまでの話などを中心に進めてゆきました。発表しながら、自分たちの活動の今後の課題もよく見えてきたような気がします。私たちの取り組んでいる「白いも」も今後は戦略をきっちりと立て、系統だてた進め方をしなければなりません。また効果の確認ができるような方法も持ってなくちゃね!! 今の建設業はどの地域も同様に厳しい状況に追い込まれています。ただ厳しいなあと言う状況で何もせず待っているだけというの寂しいですよ。厳しい時期だからこそ頑張りがいがあるのではないのでしょうか!! わたしもみんなのモデルになつたらいいね!! などと言う程度ではなく、切羽詰ったなかで、必ず次の政策を見出したいと思うのです。毎年、11 月には「白いも収穫祭」を開催しています。すみれ保育園の園児や保護者の方も多数参加してくれて、大賑わい!! 恒例の池田さんによる、石焼きいも、子供たちにも大好評でした。

芋ほりの結びは、これまた恒例の園児による、お礼の歌の合唱。天気の良い青空に響く、あたたかな歌声でした。今年は、園児による「大きい芋ほりコンテスト」などもやってみました。なんと!! 40センチの芋を掘り当てた子供が優勝でした。今年は、パイオで苗を育てた芋の初収穫でしたので、少し不安もありましたが、大丈夫でした。今年の芋ほりはいろんな意味で、今後の私たちの農業経営にとっても、重要な年でありました。

# TRY 白石とおる

愛 夢 感動のまちづくり

微(Toru)と地域(Region)とあなた(You)

愛媛県議会議員  
白石とおる後援会事務所  
〒792-0026 新居浜市久保田町3丁目9番25号  
TEL 0897-65-3751 FAX 0897-65-3752  
●URL http://www.shiraishi.gr.jp/  
●E-Mail toru@shiraishi-inc.co.jp

白石とおる 後援会事務所  
新居浜市 総合福祉センター

# 参議院議員選挙

選挙は結果がすべてとはいえないものの、その個人の能力で負けるのならまだしも、その政治家の評価をせずに、全体の流れに流されてしまうような選挙には、なってほしくないです。私が客観的な見方のできる選挙民だとしたら、何が今回の意志を固める決定打になるのかと考えてみます。自民党、民主党、公明党、どの政党にしようかなと考える時、自分のパートナーに誰を選ぶかということと同じではないでしょうか? 信頼できる、実行力のある、人を裏切らない、そんな、人を選ぶでしょう。だから自民党なので、だから公明党なのではないでしょうか? 政府、自民党に対しての信任か不信任かを問う選挙ですから、民主党と自民党のマニフェストについての議論が沸きあがるわけもなく、自民党に対する政策の是非々々を議論する選挙になったと思います。大きな選挙では、人物像まではみなさんに、よく見ていただくというところまでは難しいのですが、選挙を前にした、政治家対評論家、もしくは政治家対政治家という討論を見るだけではなく、国民の中だけでの議論や、討論もあってもいいのではと思います。今回の結果が自民党を改革してゆく一つの原動力になればいいかと思っております。それにしても、選挙という土俵で確かな結果をださなければいけない世界に居る私たちにとって、その結果がすべてとはいえない現実を突きつけられました。これを跳ね除ける施策を今後つくらねばと思います。

# 地域再生フォーラム

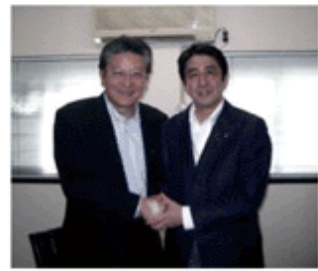
地域再生を進めるためには、平成の大合併の推進や道州制の議論が高まりを見せるなど、地域を取り巻く環境が大きく様変わりしていく中で、魅力ある地域づくりを進め、地域をダイナミックに再生していくためには、「自助と自立の精神」の下、地域の特性や住民のニーズなどを踏まえながら、自ら「知恵と工夫の共創による活性化」を図り、地域経済の活性化と地域雇用の創造を実現することが重要です。



地域再生とは、地域の産業、技術、人材、観光資源、自然環境、文化、歴史など地域が有する様々な資源や強みを知恵と工夫により有効活用しながら、文化的・社会的なつながりによる地域のコミュニティの活性化を図り、個性ある豊かな地域づくりを達成していくものです。新居浜市の固有の地域資源である太鼓祭りや産業遺産をこれからのまちづくりにどう活かしていくか、開発が進むJR新居浜駅周辺を新居浜の新しい顔づくりとしてどのように整備していくか、新居浜のまちづくりを支援する仕組みをどのように創っていくか、地域が自ら考えそして行動するために、今、市民の英知を結集しながら大きな戦略を模索し、市民自らがまちづくりに主体的に関わっていく大切な時期にきています。第1回は市と県、そして国の役割を議論しました。第2回では、新居浜の顔としての駅前開発と、ミュージアムの役割についての議論をいたしました。今度は、具体的な市のビジョンと戦略について、具体的な施設の内容についても発表できるような段階取りをしたいと思っております。前回は資金のことで、議会軽視と市議会から指摘を受けましたので、今回は前々回と同様に自分の資金調達のみで開催したいと思っております。運営の組織もゼロベースで見直し、新たな組織づくりもしておきたいと思うのです。この3、4年が新居浜にとって最も大切な、私たちの未来を占う上で、しっかりとした基盤を作っておかなければならない時期ではないでしょうか!! 「ほんき」で語り合い、「ほんき」でまちづくりに取り組み、「ほんき」でこのまち新居浜を愛することのできるようなひとづくりをしなければなりません。長年、求めてきた「使命のゆくえ」を与えていただいたような気がするのです。がんばります!!

平成 19 年 6 月 30 日 (土)

# 安倍総理 新居浜来る!!



安倍総理が新居浜においでになり、身近にお会いすると、優しさのなかに包容力を感じる人でした。滞在時間は、ほんの50分ほどでしたが、総理のお人柄を多くの人がわかっていただけたかな? と思います。開演の2時間前から会場に徐々に人が集まってきていて、そのことがうらやましいというか、私もこんな「男」になりたいなあ(人をひきつけるという意味)などと思っておりましたが本人と接して見て、よくわかりました。まだまだ、こんな「男」にはなれないなあ…。勝手に総理を自分の目標にしている私でした。やっぱり、日本のトップになる人というのは、オーラがちがいました。しかし、9月の退任は残念でしたね。

# 9月定例県議会 一般質問

今回の質問は项目的には、県全体の行政運営のこと、平成の合併の総括、環境、地域の活性化、など、あとは福祉に関して3問用意しました。基本的には、今回の質問のベースに各市町と県との「政策連携」をテーマに組み立てています。特に、障害福祉、高齢福祉など、現場重視で政策を構築してゆくべきところを、国主導で下方へ流す、これまでのスタイルの限界は誰もが承知のことと思います。つまり、大きな問題として、地方分権が地方主導で行われていないこと、地域が独自の施策を打ち出し、その施策を地域が共有しながら調整してゆき、そこで生まれた政策連携が国を、また国の政策を形作ってゆくところの欠如、福祉の制度作りの段階で多く見えてきました。国民は今こそ地域の現状を十分分まえた、真の福祉施策を求めているのではないのでしょうか? その施策作りを多くの連携で作り上げることのできた地域が先進地として頭角を現してくるのはまじかだと思っております。今回の私の質問は「市町と県との連携」がテーマでした。できているようで、両者の関係は、上下関係のような部分が多いと感じます。また、ある事業で、市町と県が協働して取り組んだり、また、政策を作り上げたりしたことは皆無ではないでしょうか? 県と市町とのコラボレーションこそが、新しい政策形成のシステムになるのではないかと考えています。また、県と各市町との間に高度な情報の共有がなされ、組織内部の活性化にもつながることと思います。お互いに得意な分野に関しては補完しあえます。さらには、人事交流なども進めながら、来るべき道州制が導入されたときに、県のエリア内での調整がスムーズにゆくようになればなりません。道州制がはじまれば、県の役割というのは調整機能のみになるのかどうか判りません。ただ、逆に州政権では、各市町から集まる陳情の調整ができるかどうかという疑問です。どうしても、企画調整機能は旧県当局で所持しておかなければなりません。